

グループホームとは？

認知症高齢者グループホームの本旨は、「認知症高齢者が小規模な生活の場で少人数(5人から9人)を単位とした共同住居の形態で、食事の支度や掃除、洗濯などをスタッフが利用者とともに共同で行い、一日中家庭的で落ち着いた雰囲気の中で生活を送ることにより、認知症状の進行を穏やかにし、家庭介護の負担軽減に資することにあります。

認知症高齢者グループホームでは、認知症高齢者にとって生活しやすい環境を整え、少人数の中で「なじみの関係」をつくり上げることによって、生活上のつまづきや行動障害を軽減し、心身の状態を穏やかに保つことができます。また、認知症高齢者に対しては、過去に体験したことがある役割を与えるなどして、潜在的な力に働きかけます。こうして、高齢者の失われかけた能力を再び引き出し、「生活様式を再構築する」ことが可能になります。

認知症高齢者は、集団の中で、画一的にケアを受けていると、生活そのものがケアに支配され、自己が失われていくような不安を感じます。そうした不安を感じさせないように、認知症高齢者を生活の主体者としてとらえ、個々の生活を重視し、残された能力を最大限に活用できるような環境を提供します。認知症高齢者は、過去に体験した「想い」をその暮らしの中で展開できる、家庭に近い環境を必要とします。

認知症高齢者グループホームのケアは、認知症高齢者が混乱しないで普通の生活を送ることができるようにすることを何よりも優先します。認知症高齢者が「心身の痛みを緩和し」、「心を癒し」、「生活に満足できる」ように導きます。